

ニシノオオアカウキクサ *Azolla filiculoides* Lam.

【概要と選定理由】

浮水性のシダ植物。アイオオアカウキクサ（p.111）の片親である。ニシノオオアカウキクサは、一時は在来系統とも考えられたが、現在は東南アジアからの帰化系統と考えられている。アイオオアカウキクサ同様の被害を与えており、孢子繁殖もできるので問題が大きい。外来アゾラ類として国の緊急対策外来種に選定されている。

【形態】

植物体は枝分かかれし、五角形状や四辺形状の円形、直径 1~2cm になる。根は水中に垂れ、根毛は宿存生である。葉は長さ 1mm 程度で瓦鱗状に連なり、日が当たる場所では赤褐色になり、表面の毛は 1 細胞。

【分布の概要】

【世界の分布】

東南アジアを中心に、アイガモ農法に取り入れられている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。西日本を中心に各地から報告されている。

【県内の分布】

東：15 牛川町（瀧崎 27217, 2010-11-2T）、16 老津町（瀧崎 27738T, 2011-7-21）、17 神戸（中西普佐子 3715, 2016-5-24）。西：36 佐久島（村松 24818, 2009-6-6）。尾：37b 新居（村松 25550, 2010-11-20）、38a 熊張（村松 26530, 2012-8-21）、38b 岩藤町（村松 25259, 2010-7-10）、51 鶴舞公園（鳥居ちゑ子 3121, 2012-11-9N）52 港区潮見町（鳥居ちゑ子 2744, 2009-9-16）。

【生育地の環境／生態的特性】

水鳥の訪れるため池や水田に逸出し、そこから流出する水路にも広がる。愛知県の平野部では十分に越冬でき、何年も継続的に生育することがある。孢子繁殖も出来るものと考えられる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

アイオオアカウキクサほど多くはないが所々で確認されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

雑種のアイオオアカウキクサ（p.111）同様、水田やため池の水面を被って沈水植物の生長を阻害している。

【特記事項】

本種やアイオオアカウキクサによく似た在来種のアカウキクサ *A. imbricata* (Roxb. ex Griff.) Nakai (国 VU, 県 CR) は、植物体がほぼ三角形になることで見分けられる。アカウキクサは現在では極めて稀な植物になっており、現存する確実な自生地は愛知県ではなくなってしまった（愛知県 2020）。

【引用文献】

愛知県 2020, p.91.

【関連文献】

農教Ⅱ p.470, N 水草 p.32, 学シダⅠ p.337.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

アイオオアカウキクサ *Azolla cristata* × *A. filiculoides*

【概要と選定理由】

浮水性のシダ植物。アメリカオオアカウキクサ *A. cristata* Kaulf. とニシノオオアカウキクサ *A. filiculoides* Lam. の雑種で、イネの幼苗よりもアイガモがこちらを好んで食べること、窒素同化能力があること、旺盛に栄養繁殖し、水面を完全に覆って沈水性の植物や水底から発芽する抽水性の植物の生育を強く抑制することから、アイガモ農法に取り入れられている。雑種性で孢子繁殖を行わないため、自然界への影響は少ないと考えられてきた。しかし実際には、水鳥の足に付着して運ばれることで他の場所に拡散し、拡散先の植生に深刻な影響を与えている。外来アゾラ類として国の緊急対策外来種に選定されている。片親のアメリカオオアカウキクサは国の特定外来生物に指定されている。

【形態】

植物体は枝分かかれし、五角形状や四辺形状の円形、直径 1~2cm になる。根は水中に垂れ、根毛は宿存生である。葉は長さ 1mm 程度で瓦鱗状に連なり、日が当たる場所では赤褐色になり、表面の毛は 1 細胞のもの（ニシノオオアカウキクサの特徴）と 2 細胞のもの（アメリカオオアカウキクサの特徴）が混在する。

【分布の概要】

【世界の分布】

人為的に作出された雑種で、東南アジアを中心に、アイガモ農法に取り入れられている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。西日本を中心に各地から報告されている。

【県内の分布】

東：13 一宮町（小林元男 80447, 2003-10-26）、15 岩崎町（瀧崎 23622, 2007-11-10T）、16 植田町（瀧崎 27732, 2011-7-21T）西：36 一色町（芹沢 82699, 2007-10-13）。尾：38b 岩藤町（村松 25260, 2010-7-10）、39b 阿野町（浅野守彦 2039, 2005, 8, 15）、41b 南（鳥居ちゑ子 3007, 2011-10-25）、43 会前町（鳥居ちゑ子 2741, 2009-8-28）、50 西区山田町（芹沢 79323, 2004-8-16）、51 昭和区鶴舞（鳥居ちゑ子 3121, 2012-11-9）。12 新城市旧市域（小林 2020）からも報告されている。



15 水神池 2010 年 3 月 瀧崎撮影

【生育地の環境／生態的特性】

水鳥の訪れるため池や水田に逸出し、そこから流出する水路にも広がる。愛知県の平野部では十分に越冬でき、何年も継続的に生育することがある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

アイガモ農法に取り入れられており、水鳥の足に付着して運ばれることで他の場所に拡散している。外来アカウキクサ類の生育地点は近年急増しており、【県内の分布】に挙げた以外にもあちこちにあるという話を聞くが、その多くは本雑種と思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

もともと他の植物の生育を抑制することを目的として導入されたものだけに、管理外の場所に拡散してしまうと、影響は深刻である。例えば豊橋市北部の水神池では、サガミトリゲモ(国 VU, 県 VU)の生育が著しく妨げられた。本雑種が増殖すると、水面は赤褐色に染まり、アンツーカーのグラウンドのようになる。水があると思わずに踏み込んで落ちたという話もある。住民が気味悪がって、行政に訴えた事例もある。駆除は、かき寄せて取り除く以外によい方法がない。駆除した植物体は、よい肥料になるという（渡辺 1981）。

【特記事項】

アメリカオオアカウキクサは、現在のところ愛知県内では確認されていない。

【引用文献】

小林元男. 2020. 鳳来寺山・新城市の植物 p.188. しんしろ山親会, 豊川市.
渡辺 巖. 1981. アカウキクサーラン藻の共生による生物的窒素固定とその利用. 日本土壤肥科学雑誌 52:455-464.

【関連文献】

農教Ⅱp.470, N 水草 p.34, 学シダ I p.337.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

オオサンショウモ *Salvinia molesta* D.S.Mitch.

【概要と選定理由】

浮水性のシダ植物。国の重点対策外来種に選定されているが、愛知県内では西三河の平野部で 2 回確認されているだけである。

【形態】

植物体はあまり枝分かれせず、楕円形の葉を茎の両側に密に対生する。葉はしばしば、内側に強く二つ折りになり、表面には先端が結合した 4 本束になる毛が密生する。

【分布の概要】

【世界の分布】

東南アジア。

【国内の分布】

本州、四国、九州。西日本を中心に各地から報告されている。

【県内の分布】

西:32a 井ヶ谷町草野池(辻敬一 147, 2001-10-9), 33 別郷町(堀田喜久 3203, 1987-10-4)。



【生育地の環境／生態的特性】

沖縄県を中心に、観賞用に栽培、販売されている。

水鳥の訪れるため池や水田に逸出し、そこから流出する水路にも広がる。胞子が水鳥の足について運ばれることも懸念される。

熱帯性で、水温が高いと異常繁殖する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

生育量や、どの程度継続的に発生したかについては記録が残されておらず、不明である。

【被害状況／駆除策と留意点】

沖縄県恩納村では、ため池を埋め尽くして繁茂する状況が確認されているが、県内では現在のところまだ確認例は少ない。

駆除は、かき寄せて取り除く以外によい方法がない。

【特記事項】

在来種のサンショウモ *S. natans* (L.) All. (国 VU, 県 CR) は、近年ほとんど愛知県内で確認されていない。現存が確認できるのは 21 下山の水田跡地だけだが、ここでも遷移の進行により、衰退が著しい(愛知県 2020)。

【引用文献】

愛知県 2020, p.92.

【関連文献】

農教Ⅱp.385, N 水草 p.29.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

フサジュンサイ (ハゴロモモ) *Cabomba caroliniana* A.Gray

【概要と選定理由】

多年生の沈水性水草。密集した群落を形成して、在来の水生植物の生育を阻害する。国の重点対策外来種に選定されており、愛知県の条例公表種でもある。

【形態】

水中茎は基部で分枝して、全体として密なかたまりとなる。葉は対生し、長さ0.8~2cmの柄があり、葉身は細裂して掌状にひろがり、長さ2~3.5cmになる。花期は7~10月、この時期には長楕円形で楕形、長さ1~2cmの浮葉が形成される。花は水面上に出て咲き、白色、直径1~1.5cm、花被片は6枚で互いに重なり合う。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ。観賞用に世界各地に導入され、東アジアとヨーロッパに帰化している。

【国内の分布】

本州~琉球。

【県内の分布】

東：18 伊川津町般若寺池 (瀧崎 26144T, 2009-10-4)。西：31 深溝宮ノ入池 (金子律子 1238, 1995-9-22), 32a 広見町(中村裕治 1243, 1994-10-9)。尾：37a 島原町 神田池(日比野修 885, 1992-9-28), 39b 二村台 (浅野守彦 1350, 2002-6-16), 42a 宮津山田池 (渡邊麻子 994, 1995-10-14), 43 子鈴谷 (中井三従美 6, 1989-5-29), 45 前原 (塚本威彦 1208, 1994-7-15), 46b 外坪巾下川 (福岡義洋 5042, 2000-10-7), 49c 春日町落合 (鈴木幸子 676, 1994-10-14), 50 名東区塚ノ丘池 (芹沢 57797, 1990-10-17), 51 緑区滝ノ水池 (中島ひろみ・渡辺幸子 4370, 2000-7-13), 52 港区福屋 (高木順夫 11608, 2003-9-23), 56a 七宝町蟹江川 (鈴木秀樹 5006, 1997-11-6)。14 蒲郡 (小林 2004) でも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

ため池やゆるやかな流れの水路に生育し、時に大群落を形成する。常緑性のため、殖芽や種子で越冬する他の水草の初期生長を著しく阻害する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは昭和初期に移入された。その後「カボンバ」の名で観賞用水草として広く販売されるようになり、増殖したものが捨てられて逸出帰化したと思われる。愛知県では1970年8月に名古屋市港区南陽町で生育が確認されており(浜島繁隆氏私信)、現在では平野部や平野部に近い丘陵地に生育する。水界ならどこにでも見られるというほどではないが、ある場所では大量に生育していることが多い。

【被害状況／駆除策と留意点】

名古屋市名東区塚の塚ノ丘池では、1984年に本種が突然出現し、爆発的に増加して1989年には池の約90%を占有するようになり、ガガブタ(国NT, 県NT)やヒシなどの在来水草を著しく圧迫した(浜島1994)。

【特記事項】

ハゴロモモとも呼ばれる。在来のフサモ類や沈水状態のキクモに似ているが、葉の裂片はやや幅広く、規則的に分枝して平面的に広がる。

【引用文献】

浜島繁隆. 1994. 塚の丘池(名古屋市)の水草相11年の動態. 水草研究会会報(54): 19-22.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.117. 東三河農林水産事務所.

【関連文献】

保帰化 p.396, 平帰化 p.77, 平新版 1 p.45, 農教 I p.78, N 水草 p.38.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

園芸スイレン *Nymphaea* spp.

【概要と選定理由】

多年生の浮葉植物。しばしば栽培され、多数の園芸化された種と、多くの品種がある。国内に持ち込まれ環境省が重点対策外来種に選定した園芸スイレンは少なくとも13種を含むと思われる(米倉・梶田 2003-)が、まだ種名を検討できていない。野外でもしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い、在来の水草の生育に多大な影響を与える。園芸スイレン全種が愛知県の条例公表種である。

【形態】

根茎は水底を分枝しながら匍匐し、先端に葉をつける。浮葉は長い柄があり、葉身はほぼ円形で中央まで深く切れ込み、直径10~30cm、切れ込みの角の外側に小突起があることが多い。花期は5~10月、花は水面に浮かび、白色または帯紅色のものが多く、直径7~15cm、多数の花弁と雄しべがある。

【分布の概要】

【世界の分布】

世界中に約40種があり、交配によって多数の園芸品種が作出されている。

【国内の分布】

各地で生育しているが、植栽と逸出の境界が明確でなく、詳細はよくわからない。

【県内の分布】

東:12 出沢 新城総合公園(瀧崎 26965, 2010-7-25T)。
西:24 古瀬間町(山崎玲子 802, 1994-5-31), 25 伊保町(鈴木淳 322, 1993-8-25), 28 鹿勝川(芹沢 57149, 1990-9-21), 29 小呂町(杉田一記 685, 2010-5-26), 31 大草(金子律子 1316, 1995-9-28), 32a 井ヶ谷町 牛池(瀧崎 4080, 1980-5-10T)。尾:38a 前熊(芹沢 78034, 2002-9-4), 38b 三本木(鈴木淳 189, 1993-8-2), 42a 板山(林彰一 60, 1990-5-25), 43 久米(林彰一 605, 1990-8-27), 48 細野町(竹原芳子 78, 1993-7-8), 50 名東区猪高町上社(鈴木淳 430, 1993-9-25), 51 天白区島田黒石(西川勇夫 361, 1994-7-3), 57a 宮川町(石樽弓恵 866, 1998-9-30), 57b 佐屋町本部田(石樽弓恵 864, 1998-9-30)。



石樽弓恵 866

【生育地の環境／生態的特性】

人里近くのため池などで見かけることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

広く栽培される園芸植物で、全国的にも愛知県でも不要になって投棄される事例は少なく、「きれいだから」と意図的に植栽されることが多い。植栽された場所ではしばしば栄養的によく繁殖するが、現在のところ他の場所に二次的に拡散したと思われる事例は少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

人間が管理しきれないため池などに植栽されると、しばしば増殖して葉が重なり合うほどに水面を覆い、その場所に本来生育していた水草を全滅させてしまう。対策としては、「植えないこと」が最も重要である。あちこちで繰り返し述べていることだが、「ない」というのは生物多様性の重要な要素で、その「ない」状態を破壊する持ち込みは、自然に対する重大な破壊行為である。すでに植えられたものは、可能な限り除去することが望ましい。ある程度除去した後で残存個体を根絶させるためには遮光が有効だが、遮光材が水中で分解すると他の植物に悪影響を及ぼす可能性もあるので、分解しない材質のものを使用の方が無難である。なお、在来スイレンのヒツジグサは、県内の良好な環境の湿地やため池などに生育している。

【引用文献】

米倉浩司・梶田忠. 2003-. BG Plants 和名・学名インデックス(YList). <http://ylist.info>

【関連文献】

N 水草 p.52.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ボタンウキクサ *Pistia stratiotes* L.

【概要と選定理由】

浮遊性の水生植物。ホテイアオイと同様に栄養的に増殖して水面を覆い、他の水草の生育を妨げる。一時的な増殖速度はホテイアオイ以上である。国の特定外来生物に指定されている。国の緊急対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト100にも選定されている。

【形態】

主茎はごく短く、根は細かく枝分かれして水中に垂れる。葉はロゼット状に広がり、倒三角形～倒卵形で基部は短い柄状になり、長さ7～15cm、円頭またはやや凹頭、両面にビロード状の短毛を密生する。花期は9～10月、花序は葉の間に生じるが、小さく淡緑色で目立たない。

【分布の概要】

【世界の分布】

南アフリカ原産と言われるが、現在では世界の熱帯、亜熱帯域に広く分布している。

【国内の分布】

本州（埼玉県以西）～琉球、小笠原。

【県内の分布】

東：15 岩崎町利兵池（小林元男 58569, 1995-10-22）。西：24 松平志賀町（山崎玲子 878, 1994-7-23），26 畝部東町（畑佐武司 2291T, 2001-8-11），36 吉良町吉田（小林元男 58546, 1995-10-21）。尾：40b 明徳寺川（中井三従美 30, 1992-9-27），51 天白区池場天白川（渡辺幸子 4454, 2000-9-3）。13 豊川旧市域（小林 2004）からも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼や流れの緩い水路に浮遊し、葉の間から走出枝を伸ばして先端に幼株をつけ、栄養的に盛んに繁殖する。熱帯性のため冬に枯死してしまうことが多いが、越冬すれば常緑多年生となる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

昭和初期に観賞用水草として導入され、当時から沖縄や小笠原では逸出していたらしい。本州では越冬できないと言われていたが、1990年代から越冬事例が報告されるようになり、場所によっては著しく増殖するようになった。愛知県でも時折平野部の池沼で爆発的に増殖することがあるが、現在のところ継続的に生育している場所は少ない。

【被害状況／駆除策と留意点】

越冬して継続的に生育するようになればもちろん影響は大きいですが、一時的に増殖して密集した群落を作るだけでも、在来水生植物は深刻な影響を受ける。例えば名古屋市大森雨池ではガガブタ（国 NT, 県 NT）が池一面に生育していたが、投入された本種が増殖して水面を覆い、その後本種は消失したが、ガガブタも見られなくなった（愛知県 2020）。

【特記事項】

英名はウォーターレタス。

【引用文献】

愛知県 2020. p.659.
小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.195. 東三河農林水産事務所.

【関連文献】

平新版 1 p.91, 農教 1 p.472, N 水草 p.67.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ナガバオモダカ *Sagittaria graminea* Michx.

【概要と選定理由】

多年生の抽水植物。ジャイアントサギッタリアの名で栽培される観賞用水草で、栄養的に繁殖して大きな群落を作る。国の重点対策外来種とされている。愛知県ではまだ少ないが今後分布を拡大する可能性があり、予防的な意味で県条例公表種にも選定された。稀少な植物が多く生育する愛知県の湿地に侵入すれば、大きな影響を与えるおそれがある。

【形態】

茎は短く、葉を束生する。葉ははじめ葉柄と葉身の区別がなく、線形、長さ 12~20cm、幅 0.7~2cm であるが、後から出る葉は長い柄があり、葉身は線状楕円形、長さ 8~15cm、幅 1.5~2.5cm、先端は鈍頭、辺縁は全縁となる。花期は 8~9 月、花は長い花茎の先に通常 3 個ずつ数段輪生し、雌花は直径約 1.5cm、花弁は 3 枚で白色、中央に球状に集まった多数の雌ずいがある。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ東部。北米西部のワシントン州、イギリス、ベトナム、トリニダードトバコへの帰化が知られている。

【国内の分布】

本州のところどころで逸出帰化が報告されている。

【県内の分布】

西：25 猿投町（山崎玲子 1631, 1997-9-9）、29 小呂町（杉田一記 529, 2010-5-14）、32b 八橋町（堀田喜久 22208, 2017-5-17）。尾：41a 富貴島町（吉鶴靖則 655, 2015-4-27）、50 名東区猪高緑地（鳥居ちゑ子 3357, 2014-6-10）。



【生育地の環境／生態的特性】

ため池や水路。走出枝を出して栄養的に繁殖する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

野生状態のものは、日本では 1970 年代に京都府の深泥池ではじめて確認された。おそらく投棄により逸出したものと思われる。愛知県では 2012 年には 2 点の標本があっただけだが、2017 年までに上記のように標本資料が増えている。今後平野部や丘陵地の水辺に、さらに広がるおそれがある。

【被害状況／駆除策と留意点】

繁殖力が旺盛で冬も枯れないため、一度定着すると在来の水生植物群落に大きな影響を与える可能性が高い。発見したらなるべく早い段階で抜き取る必要がある。熱帯魚水槽で栽培される観賞用水草には、本種のほかにハビコリハコベ (p.169)、ウチワゼニクサ (p.188)、ボタンウキクサ (p.115) など、野外に逸出すると旺盛に繁殖し、在来植物群落に深刻な影響を与えるものが少なくない。増殖して余った場合でも絶対に野外に投棄しないよう、特に注意する必要がある。

【特記事項】

葉形は在来種のヘラオモダカに似ているが、ヘラオモダカは走出枝を出さず、花序が大きく横に広がり、花は小さく両性である。

【関連文献】

平帰化 p.236, 農教 I p.403, N 水草 p.81.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

オオカナダモ *Egeria densa* Planch.

【概要と選定理由】

常緑で多年生の沈水性水草。水中に密集した群落を作り、他の水草の生育を妨げる。国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は長さ 1m 以上になる。葉は 3~5 輪生、通常斜開し、広線形で長さ 1.5~3cm、幅 2~3mm、先端は鋭頭、辺縁には微小な鋸歯がある。花期は 7~10 月、花は長さ 3~5cm の柄があり、水面から出て開花し、花弁は 3 枚で白色、楕円形で長さ 5~8mm、幅 3~6mm である。雌雄異株であるが、日本には雄株だけが入っている。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ（アルゼンチン）だが、現在では北アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアなどに広く帰化している。

【国内の分布】

本州~琉球。

【県内の分布】

東：12 豊島（加藤等次 2091, 1992-9-27）、13 牛久保町（加藤等次 2325, 1992-10-29）、15 嵩山町（芹沢 44790, 1986-9-22）、16 船渡町（瀧崎 21054, 2003-10-11T）、17 野田町（瀧崎 24244, 2008-7-20T）。

西：24 扶桑町（畑佐武司 6408T, 2003-10-10）。尾：38 赤池（半田多美子 1225, 1993-8-5）、41a 加木屋町

（加藤雅憲 955, 1996-10-12）、43 久米（村松 27068, 2013-10-19）、45 塔野地（塚本威彦 1203, 1994-7-15）、46b 外坪（福岡義洋 5041, 2000-10-7）、47 新町（福岡義洋 4359, 1998-10-31）、48 東山町（竹原芳子 503, 1994-7-5）、49 西春町法成寺（鈴木幸子 919, 1997-8-26）、51 名古屋市南東部（浜島繁隆 s.n., 1971-7, OSA）、52 中川区富永（高木順夫 11403, 2003-9-7）、53 北方町（芹沢 70421, 1994-8-24）、54 富田（栗田郁男 317, 1993-9-5）、55 祖父江町神明津（渡辺幸子 2812T, 1996-9-24）、57b 立田村福原（山田茂貴 111, 1992-7-5）。2 豊根村旧村域（小林 2006）、8 旧鳳来町北東部、9 旧鳳来町南東部、10 旧鳳来町西部（小林 2020）などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川。茎が切れて流れ着くことで栄養繁殖する。休眠芽を作り冬を越す。休眠芽によっても栄養繁殖する。貧栄養の水中から、かなり富栄養になった水中まで幅広く適応でき、水中に密生群落を作る。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは植物生理学の実験材料や熱帯魚飼育のための水草として大正年間に導入され、1940 年代から野生化したと推測されている。1970 年代には琵琶湖で著しく繁茂し、問題となった。愛知県では、大原（1971）が産地として岡崎と名古屋をあげている。その当時は、まだあまり広がっていなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。名古屋市東山新池ではスイレンが生育しない岸近くを本種が占拠している。矢作川では駆除作戦が行なわれたが、完全に駆除はできていない。

【特記事項】

遺伝学の実験材料であるシロイヌナズナも、各地の大学構内等で逸出して広がっている。実験材料の逸出防止には細心の注意が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.213. 愛知県林業試験研究推進協議会.
小林元男. 2020. 鳳来寺山・新城市の植物 p.195. しんしろ山親会, 豊川市.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.128. 名古屋営林局.

【関連文献】

保帰化 p.398-399, 平新版 1 p.119. 農教 I p.404, N 水草 p.88.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

コカナダモ *Eloдея nuttallii* (Planch.) St. John

【概要と選定理由】

常緑で多年生の沈水性水草。水中に密集した群落を作り、他の水草の生育を妨げる。汚濁した水域にも生育するが、貧栄養の清水域にも侵入する。国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎はよく分枝し、長さ 1m 以上になる。葉は 3 輪生、線形～線状楕円形でねじれたり反曲したりすることが多く、長さ 7～15mm、幅 1～2mm、先端は鋭頭、辺縁には細鋸歯がある。花期は 6～9 月、雄花は苞鞘の中で形成され、切れて水面に浮かんで開花し、直径約 3mm である。雌雄異株であるが、日本には雄株だけが入っている。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ原産。現在ではヨーロッパ、中国内陸部、フィリピンに帰化が知られている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【県内の分布】

西：24 扶桑町（山崎玲子 908, 1994-8-19）、29 岡崎市北部（浜島繁隆 s.n., 1996-6, OSA）、33 村高町（堀田喜久 1012, 1993-10-17）、34 稲荷町（芹沢 81126, 2006-10-8）。尾：37b 城山町（村松 20489, 2001-4-30N）38a 長湫（鈴木淳, 1993-8-22）、39b 沓掛町（芹沢 71369, 1994-10-25）、40b 生路（渡邊麻子 1067, 1995-11-7）、41a 加木屋町（加藤雅憲 1267, 1997-7-15）42a, 宮津（渡邊麻子 1016, 1995-10-17）、46a 扶桑町（芹沢 65806, 1993-6-6）、46b 外坪（福岡義洋 5039, 2000-10-7）、47 村中（福岡義洋 4350, 1998-10-31）、49c 師勝町熊之庄（鈴木幸子 374, 1992-11-11）、50 名東区引山（鳥居ちよ子 1122, 1996-8-24）、51 名古屋市南東部（浜島繁隆 s.n., 1971-7, OSA）、52 中川区福島（高木順夫 130, 1992-7-5）、53 北方町（栗田郁男 261, 1993-6-13）、54 尾西市開明（渡辺幸子 1164, 1993-8-24）、55 祖父江町馬飼（渡辺幸子 5487T, 2003-10-7）、57b 立田村立田（芹沢 59809, 1992-8-23）。8 旧鳳来町北東部（小林 2020）、16 豊橋市南部（小林 2001）、17,18 田原市（旧町域、旧渥美町）（小林 2002）からも記録されている。



芹沢 71369

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは熱帯魚飼育用の水草として昭和初期に渡来した。1961 年に琵琶湖で確認されたのが、野生化の最初の記録である。その後各地に拡がり、尾瀬沼などで著しく増殖して問題となった。愛知県でも平野部の水域の所々で生育している。琵琶湖から出荷される稚アユに切れ藻が混入して各地に拡がったと推測されている。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。特に在来種のクロモ *Hydrilla verticillata* (L.f.) Royle と競合するが、本種は常緑性のため、殖芽越冬のクロモの初期生長を著しく阻害する。

【特記事項】

クロモは葉が 4～10 輪生し、夏緑性で、冬には殖芽だけが残る。

【引用文献】

- 小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.133. 愛知県植物誌調査会.
- 小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.152. 東三林業振興会.
- 小林元男. 2020. 鳳来寺山・新城市の植物 p.195. しんしろ山親会, 豊川市.

【関連文献】

保帰化 p.397-398, 平新版 1 p.120, 農教 I p.404, N 水草 p.89.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

アマゾンチカガミ *Limnobium laevigatum* (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine

【概要と選定理由】

常緑で多年生の浮草。短い茎から放射状に葉を広げ、水面を被って他の水草の生育を妨げる。流れの弱いため池や水路などに生育する。熱帯原産であるので、水温が 10℃を下回ると成長が止まるが、霜に当たらなければ枯れずに越冬する。初心者にも栽培が容易なアクアリウムプランツとして複数の種がアマゾンチカガミの名前で流通する。上記の学名のアマゾンチカガミは葉の起部が心形になり葉の先がやや尖る。より葉が小さく基部が心形にならないドワーフフロッグピットの園芸名で流通するものもあるが、学名は不詳である。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

水中茎が横に伸び、各節から根と多数の葉をロゼット状に出し水面に浮かせる。葉は *L. laevigatum* では基部が心形になり径 1.5~4cm の、やや先の尖る円形。ドワーフフロッグピットでは径 1~2.5cm の円形。どちらも葉の裏ほぼ全面に浮き袋をもつ。表面には濃紫褐色の不規則な斑が、縁から中央に向かってのびることもある。成長すると茎から走出枝を出し、その先に無性芽を付け、増殖する。花期は不定であるが、6~9 月。雌雄同株で、雌花と雄花をつける。雄花の外花被片は幅広く三角形で、やや細い内花被片とともに平開する。雌花は小さな外花被片 3 枚が平開し、6~9 本の雌しべが立ち上がる。子房下位。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中南米熱帯域。カリフォルニア、ジャワ島、オーストラリア、スペイン、台湾、ザンビア、ジンバブエに帰化。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【県内の分布】

西：29 河原町（河江喜久代 s.n. 2018-1-20T）尾：45 栗栖（ドワーフフロッグピット、瀧崎 24927, 2008-10-25），50 中区二の丸（芹沢 89698, 2014-9-29），51 緑区桶狭間（中村肇 1069, 2015-10-26N），52 港区西福田（中村肇 1100, 2015-8-16N）。

15 豊橋市向山大池での生育も確認されている（ドワーフフロッグピット、稗田真也氏私信）。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池や河川のよどみ。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へは初心者でも栽培が容易なアクアリウムの水草として渡来したが、渡来時期は不詳。野外では 2005 年に淀川で確認された記録がある。その後各地に拡がり、2016 年には神奈川県厚木市で高校生も加わっての除去が行われたりしている（高田 2016）。

【被害状況／駆除策と留意点】

浮葉が水面を被うことで、浸水性植物や抽水生植物の生育に著しい被害を与える。かき寄せて取り除く以外に方法がない。

【特記事項】

在来種トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer (国 NT, 県 EN) は、葉の裏面の浮き袋は中央部のみにある。雄花雌花とも花被片は 3 枚が白く目立つ。

【引用文献】

高田ヒロシ. 2016. 外来種アマゾンチカガミの駆除. 高田ヒロシ通信. <http://www.hiroshi-takada.com/160902.html>

【関連文献】

N 水草 p.93.



ドワーフフロッグピット
瀧崎 24927



アマゾンチカガミ 芹沢 89698

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

コウガイセキシウモ *Vallisneria* × *pseudorosulata* S. Fujii et M. Maki

【概要と選定理由】

常緑で多年生の沈水性水草。水中に密集した群落を作り、他の水草の生育を妨げる。分類が難しく過去にはオオセキシウモ *V. gigantea* Graebn.として扱われたりしていた。2016年にDNA分析に基づきコウガイモ *V. denseserrulata* (Makino) Makinoとヨーロッパ原産のセイヨウセキシウモ *V. spiralis* L.の雑種であることがWasekura et al. (2016)によって示された。県内にはまだ記録が少ないが、同定困難な種であることもあり、未確認の個体群がどこかに生育している可能性は捨てがたい。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

葉は長さ70cmに達し、大きく育つとロゼット茎が伸長して木質化する。走出枝や葉の起部には小棘が無く、地下茎先端に越冬殖芽はつかない。葉の幅は7~13mmで先端は円頭~鈍頭。

【分布の概要】

【世界の分布】

おそらく栽培個体間でできた雑種。アクアリウムプランツとして流通しており、原産地等は不明。

【国内の分布】

本州、九州。

【県内の分布】

尾：50 守山区瀬古 堀川（芹沢 88959, 2013-9-29）、52 中川区荒子川（中村肇 738, 2014-8-30N）。

【生育地の環境／生態的特性】

河川や農業用水路など。他県では大規模河川への定着が多く知られており、矢作川・木曾三川などへの侵入が危惧される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	



【侵入の経緯／現在の生育状況】

おそらくアクアリウムプランツとしてセキシウモ属の植物が何種類か輸入されたり、国産のものが用いられたりしている中で、コウガイモとセイヨウセキシウモが交雑してできたと考えられる。国内で交雑したのか、交雑種が持ち込まれたのかは定かではない。国内で確認された最も古い標本は1998年の神奈川県内のものである。

【被害状況／駆除策と留意点】

現在のところ、名古屋市守山区の堀川で確認されているだけだが、植物体が大きく繁殖力も旺盛なので注意を要する。

【特記事項】

アクアリウムプランツを野外に遺棄したり、逸出させたりするとしばしば侵略的な外来種となってしまう。アクアリウムの水替えなどの際に逸出しないよう十分な配慮が必要である。

【引用文献】

Wasekura, H., S.Horie, S.Fujii and M.Maki. 2016. Molecular identification of alien species of *Vallisneria* (Hydrocharitaceae) species in Japan with special emphasis on the commercially traded accessions and the discovery of hybrid between nonindigenous *V. spiralis* and native *V. denseserrulata*. Aquatic Bot. 128:1-6.

【関連文献】

N水草 p.108. (オオセキシウモとして)

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

キショウブ *Iris pseudacorus* L.

【概要と選定理由】

水辺に生育する多年生草本。ため池の岸や水路に密生した群落を作り、在来の水辺植物と競合する。国の重点対策外来種とされており、愛知県の条例公表種でもある。日本の侵略的外来種ワースト100にも選定されている。

【形態】

地下茎は太く、分枝して横にはう。地上茎は上部で分枝し、高さ50~120cmになる。葉は剣状で互生し、長さ40~100cm、幅1~2.5cm、全縁、中央の脈は隆起して明瞭である。花期は5-6月、花は枝先の苞葉の中に1~2個つき、黄色で直径10cm程度、外花被片は3枚で大きい、内花被片は小さい。花の白い品種(シロバナキショウブ)も県内で確認されている。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はヨーロッパ。世界各地で栽培され、逸出している。

【国内の分布】

北海道~九州。

【県内の分布】

東: 6 駒ヶ原(瀧崎 21994, 2005-7-3T), 13 音羽町萩(瀧崎 19611, 2002-5-6T), 14 西浦町(鈴木美恵子 458, 1993-5-22), 15 岩崎町(瀧崎 10456, 1988-5-16T), 16 西幸町(瀧崎 7721, 1984-6-6T), 18 亀山町(瀧崎 28470, 2012-5-20T)。

西: 20 榑本(鈴木万里亜 576, 1995-5-28), 21 花沢(長谷川朋美 406, 1992-5-27), 22 家洞(塚本威彦 1018, 1994-5-12), 23 木瀬(日比野修 1227, 1993-5-24), 24 中金町(山田初代 559, 1991-5-28), 25 花本町(山崎玲子 86, 1992-5-15), 26 渡刈町(落合鈴枝 214, 1993-5-17), 27 蒔生(白井里華 313, 1992-5-15), 28 鹿勝川(福岡義洋 576, 1990-5-22), 29 下佐々木町(芹沢 65580, 1993-5-27), 30 本宿町(本多さおり 265, 1994-5-13), 31 深溝(金子律子 631, 1995-5-27), 32a 井ヶ谷町(瀧崎 4084, 1980-5-10T), 33 村高町(堀田喜久 1000, 1993-10-17), 35 西尾市米津町(中村さとこ 223, 1993-5-7)。尾: 37a 瀬戸市若宮町(日比野修 1243, 1993-5-27), 38b 折戸(半田多美子 948, 1993-5-11), 39a 春木(鬼頭弘 128, 1992-5-27), 39b 杓掛町(浅野守彦 1255, 2002-5-3), 40b 森岡(渡邊麻子 340, 1995-5-19), 41a 加木屋町(加藤雅憲 340, 1996-6-17), 43 新田町(鳥居ちる子 1587, 1999-5-16), 45 継鹿尾(平嶋敏 536, 1989-5-14), 46a 山那(芹沢 65793, 1993-6-6), 47 野口(村瀬正成 930307, 1993-6-2), 48 外之原町(太田さち子 37, 1993-5-23), 49c 師勝町鹿田(鈴木幸子 66, 1992-6-2), 50 守山区大森(鳥居ちる子 624, 1994-5-11), 51 天白区御幸山(渡辺幸子 233, 1992-5-15), 52 中村区横井町(鈴木秀樹 2083, 1996-5-16), 54 奥町(渡辺幸子 4223, 2000-5-16), 55 祖父江町(山内富士子 s.n., 1979-6-3), 57b 佐屋町佐屋(山田茂貴 438, 1993-5-23), 58a 蟹江本町(永田晴美 911, 2000-5-23)。豊根村(旧富山村, 旧豊根村), 東栄町, 設楽町(旧津具村, 旧設楽町)(小林 2006), 新城市(旧鳳来町, 旧作手村, 旧新城市)(小林 2000), 田原市(旧田原町, 旧赤羽根町, 旧渥美町)(小林 2002)などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

栽培すれば水辺以外でも育つが、逸出したものは常に水がある環境に生育する。ため池の岸や河川敷の湿地、水路等に多く、地下茎で栄養繁殖するだけでなく、種子が水に浮いて散布される。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として明治中期に渡来し、栽培されたものが逸出した。愛知県では平野部に多いが、三河山間部にも生育している。大原(1971)の目録には記録がなく、その当時はほとんど逸出していなかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

概要の項参照。

【特記事項】

アヤメ属の在来種は、すべて紫色系の花をつける。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.163. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.157. 東三林業振興会.
小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.218. 愛知県林業試験研究推進協議会.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

保帰化 p.361, 平新版 1 p.235, 農教 I p.412, N 水草 p.141.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

アツバキミガヨラン *Yucca gloriosa* L.

【概要と選定理由】

常緑性の草本状低木。ユッカの名でよく栽培される植物であるが、逸出して砂浜に侵入し、海浜の植生に多大な影響を与えており、稀少な海浜植物の脅威となっている。愛知県の条例公表種であり、国の重点対策外来種にも選定されている。

【形態】

茎は高さ1~1.5mになる。葉は茎の上部に多数ついて放射状に広がり、披針形、長さ70cm程度、先端は鋭尖頭、質は厚くて硬い。花期は8~11月、茎頂に高さ1~3mの総状花序を直立させ、枝を分けて、2~5cm間隔で花をつける。花はやや下向きに咲き、直径5~6cm、白色、花被片は6枚で長楕円形、幅1.2~2cmである。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ南部。世界中の暖地で栽培される。

【国内の分布】

記録は少ないが、実際には西南日本の海岸に広く逸出していると思われる。

【県内の分布】

東：15 今橋町（瀧崎 33437, 2017-9-18T）、18 堀切町（瀧崎 28909, 2012-11-4T）。西：36 佐久島（芹沢 83499, 2008-10-8）尾：43 蒲池海岸（瀧崎 32347, 2016-11-3T）。このほか豊橋市南部などで野生化しているが、標本が作成されていない。



瀧崎 28909

【生育地の環境／生態的特性】

砂浜などの裸地に生育する。耐塩性が高く、潮風の吹き付ける場所、風で砂が動く場所でも生育できる。茎の断片は容易に発根して新個体となり、地下部からも栄養繁殖する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

園芸植物として渡来し、広く庭園などで栽培されているが、株が大きくなると邪魔者扱いされやすい。河川などに投棄された植物体の一部が、砂浜に流れ着いて広がっていると思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

田原市中山町の西の浜では、ハギクソウ（国 CR, 県 CR）の群落の近くに多数生育している。常滑市の蒲池海岸でも、スナビキソウ（県 EN）の群落の中に株が点在している。砂浜には他に背が高くなる植物はなく、そのため大型のアツバキミガヨランが侵入すると影響が大きい。

葉は硬く先が鋭く尖っており、さわると傷を負うほどで、株が大きくなると物理的に駆除するのは容易ではない。蒲池海岸ではブルドーザーを使って除去を試みたが、株がちぎれて広がり、かえって個体数が増加してしまった。その後、2015年頃から県・市を中心に積極的な除去の試みが続けられており、地元企業などの協力も得てかなり成果が上がっている。投棄しないことが最も重要であるが、現存するものについては除草剤の使用など、今後適切な方法を検討する必要がある。

【特記事項】

同定は奥山（2011）による。キミガヨランからは葉先が垂れさがらないこと、花に紫条が入らないことで区別される。園芸植物の投棄が生態系に大きな影響を与える例として、広く啓発に努める必要がある。

【引用文献等】

奥山雄大. 2011. 植物図鑑. 筑波実験植物園 HP. <http://www.tbg.kahaku.go.jp/recomend/llustrated/>

【関連文献】

本田正次・林弥栄・古里和夫. 1984. 原色園芸植物大図鑑 p.620. 北隆館, 東京.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

ノハカタカラクサ *Tradescantia fluminensis* Vell.

【概要と選定理由】

常緑性の多年生草本。外来の維管束植物の大部分は開けた攪乱地に生育しており、本種のように林内に入り込んで群落を形成するものは少ない。愛知県の条例公表種であり、国の重点対策外来種にも選定されている。

【形態】

茎は地表を這い、枝を分けてその先端に無性芽をつけ、先端部は斜めに立ち上がる。葉は互生し、基部は長さ 7~12mm の葉鞘となり、葉鞘の口辺には縁毛がある。葉身は卵形~卵状長楕円形、長さ 3~6cm、幅 1.5~3cm、先端は鋭頭で平行脈がある。園芸品種の斑がなくなった、全体が緑色で結実しない品種ミドリハカタカラクサ *'Viridis'* が愛知県には最も多く帰化する。葉裏や茎の一部が赤紫色になり結実する基準品種ノハカタカラクサ (トキワツクサ) も、少ないが見られる。花期は 5~7 月、花は茎の先端部に集まってつき、内花被片は 3 枚で同形、長楕円形で長さ 7~10mm、白色、外花被片も 3 枚、長卵状楕円形で緑色である。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。斑のあるものは世界各地で栽培される。

【国内の分布】

本州, 四国, 九州。

【県内の分布】

ミドリハカタカラクサ 東: 13 音羽町長沢 (瀧崎 19116, 2001-9-18T), 14 大塚町(堀田喜久 202, 1991-6-7), 15 中山峠(瀧崎 13258, 1992-6-14), 16 杉山町(瀧崎 13370, 1992-7-19), 17 田原町波瀬(瀧崎 14377, 1993-6-28T), 18 堀切町 (瀧崎 24052, 2008-6-7T)。西: 26 水源町 (畑佐武司 3554, 2002-5-14T), 27 福田 (臼井里華 443, 1992-5-29), 31 深溝 (瀧崎 25426T, 2009-6-6), 33 別郷町 (堀田喜久 415, 1993-5-30), 36 東幡豆 (壁谷重美子 436, 1994-5-16)。尾: 39b 沓掛町 (横井邦子 274, 1993-5-24), 40a 長根町 (竹田弘光 110, 1993-5-28), 40b 石浜 (渡邊麻子 517, 1995-6-30), 41b 日長 (加藤雅憲 315, 1996-6-15), 42a 植大 (渡邊麻子 353, 1995-5-19), 42c 下山田 (岡本久美子 463, 2000-6-24), 43 常滑 (芹沢 66412, 1993-7-4), 44a 奥田 (芹沢 59062, 1991-6-28), 44b 大井 (大西博 439, 1992-5-15), 46a 高雄 (上山秀郎 156, 1993-5-28), 47 東田中 (近藤清和 4-11, 1991-5-3), 49d 春日町落合 (鈴木幸子 449, 1993-5-21), 50 千種区城山町 (広部栄 130, 1993-8-2), 51 太白区表山 (渡辺幸子 171, 1992-5-3), 52 港区当知町 (高木順夫 88, 1992-6-6), 55 天池町 (家田晴俊 263, 1994-6-30)。新城市旧市域 (小林 2000) などからも記録されている。

ノハカタカラクサ (基準品種) 東: 13 東上町 (瀧崎 23006, 2007-6-24T)。西: 31 荻 (金子律子 766, 1995-6-22)。尾: 43 久米 (梅田零奈 577, 2000-7-17), 46b 小口 (竹下希望 172, 2010-5-13), 48 押沢台 (山田果与乃 1572, 2010-5-30), 50 西区比良 (竹下希望 303, 2010-5-17)。

【生育地の環境/生態的特性】

林縁や林内に生育する。強い直射日光が当たるところでは、葉が焼けてしまう。匍匐茎に多数の無性芽をつけ栄養的に繁殖する。

【侵入の経緯/現在の生育状況】

園芸植物として昭和初期に渡来した。栽培品種シロフハカタカラクサ *'Variegata'* は葉に帯状の白い斑が入り、博多帯のようである。斑がなくなったものが逸出し、暖地で野生化している。大原 (1971) の目録では産地として蒲郡竹島と吉良が挙げられており、その当時はまだ少なかったと思われる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	○
草・岩				
湿地				
水域				

【被害状況/駆除策と留意点】

林内に入り込んで群落を形成するため、さまざまな在来種の生育を著しく圧迫する。豊川市 (旧音羽町) の切山地区では、沢と道路に沿って 1km ほどの区間のスギ林床を覆いつくしている。不用意に引き抜くと匍匐茎や無性芽が残り、すぐに元の状態に戻ってしまう。

【特記事項】

オオトキワツクサ *T. albiflora* Kunth は本種に比べ葉が薄くて大きく、葉縁の毛が目立つもので、愛知県では尾: 50 守山区大森 (鳥居ちる子 2933, 2011-7) で確認されている。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.164. 愛知県.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.143. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.197, 保帰化 p.369, 平帰化 p.241, 農教Ⅱ p.309.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

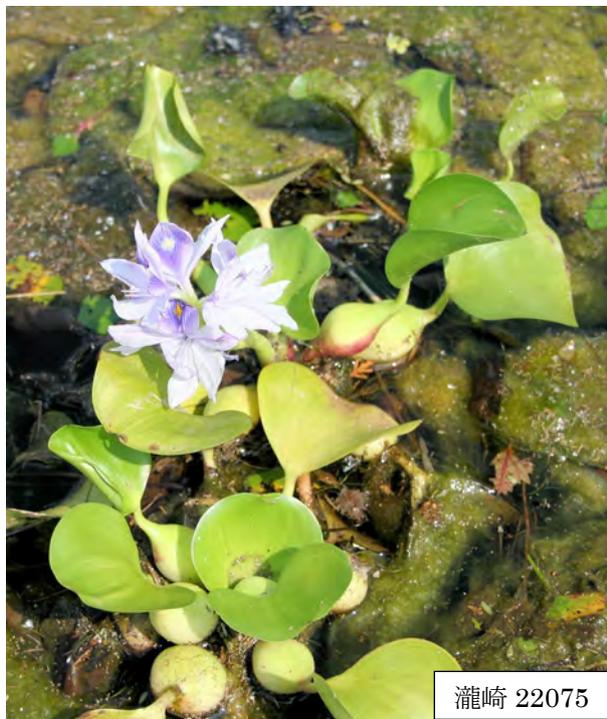
ホテイアオイ *Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms

【概要と選定理由】

浮遊性の水生植物。走出枝の先に子株をつけて栄養的に増殖し、水面を覆って他の水草の生育を妨げる。国の重点対策外来種とされており、日本および世界の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

根は水中に垂れ、黒紫色で根毛がよく発達する。葉は束生し、長さ 5~30cm の柄があり、柄の中部はふくらんで浮囊となるが、密生するとほとんどふくらまないこともある。葉身は広円心形~円形、長さ 3~13cm、幅 5~12cm、全縁である。花期は 8~10 月、花茎は長さ 10~40cm で、先端に 5~15 個の花をつける。花は淡紫色で直径約 3cm、花被片は 6 枚で、基部は筒状になる。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ。現在では全世界の熱帯~亜熱帯域に広く帰化している。

【国内の分布】

本州~琉球。

【県内の分布】

東: 12 宮ノ西(石川静雄 168, 1996-10-25), 13 瀬木町(加藤等次 2276, 1992-10-18), 15 飯村町(瀧崎 22075, 2005-8-26T), 16 細谷町(瀧崎 15199, 1994-8-29T)。西: 24 豊松町(山崎玲子 286, 1992-9-20), 26 本田町(土場トシ子 163, 1992-8-28), 30 竜泉寺町(本多さおり 649, 1994-8-25), 31 六栗(金子律子 1581, 1995-10-19), 33 東端町(堀田喜久 591, 1993-8-15), 34 芳川町(中村裕治 1254, 1994-10-10), 35 米津町(中村さとし 499, 1993-7)。尾: 38a 岩作(伊藤恭子 672, 1992-9-26), 38b 折戸(鈴木淳 423, 1993-9-5), 40b 緒川(渡邊麻子 1020, 1995-10-2), 41b 日長(加藤雅憲 677, 1996-9-7), 42b 椎ノ木町(岡本久美子 902, 2000-10-24), 43 金山(梅田零奈 837, 2000-10-2), 48 西尾町(太田さち子 1208, 1993-10-26), 49c 師勝町鹿田(鈴木幸子 547, 1993-9-20), 50 守山区小幡(太田由美子 205, 1994-9-4), 51 天白区高宮町(渡辺幸子 1747, 1994-8-22), 52 中川区水里(高木順夫 212, 1992-7-5), 55 中野町(家田晴俊 294, 1994-10-11), 57a 瑠璃小路町(山田茂貴 861, 1993-10-17)。田原市(旧町域, 旧赤羽根町, 旧渥美町)(小林 2002) などからも記録されている。

【生育地の環境/生態的特性】

ため池などの止水域に生育する。流れのある水路でも、ヨシやガマなどがあればその近くに生育することがある。休耕田などの浅い水域にも見られ、水が少なくなると陸生型となることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯/現在の生育状況】

日本へは明治時代に観賞用に導入された。花が美しく、細かい根は金魚やメダカの産卵床としても用いられる。熱帯域では昔から害草化していたが、愛知県を含む本州中部では 40 年くらい前まであまり逸出しなかった。1967 年 7 月に豊明市, 同 8 月に蟹江町で確認されたという(浜島繁隆氏私信)。現在はあちこちで見かけるようになったが、継続的に生育している場所はそれほど多くない。

【被害状況/駆除策と留意点】

概要の項で述べたように繁殖力が旺盛で水面を完全に覆ってしまうので、水中の植物は光を遮られ、全て消失してしまう。自然に分布を拡大することは少ないので、対策としては投棄しないことが最も重要である。過去に溜め池などに水質浄化の目的で導入された事例もあるが、秋にすべて引き上げなければ効果はなく、怠れば景観上も枯れ跡が汚くなるだけである。

【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.157. 東三林業振興会.

【関連文献】

保帰化 p.368, 平新版 1 p.270, 農教 I p.410, N 水草 p.144.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

コゴメイ *Juncus polyanthemus* Buchenau

【概要と選定理由】

大型の多年生イグサ科植物で、主に水辺に生える。河川敷にも生育するが埋め立て地の水抜き池周囲や養鰻池の周囲などにも多い。2001年に関口克己が神奈川県植物誌の中で学名不詳のまま初めて報告した。その後、オーストラリア原産の本種と同定された。おそらく1990年代頃から関東以西に侵入したと考えられる。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

根茎は短く、茎は密生して大株を作り、高さは1mを越える。茎に細かな条線があるがホソイのような目立った肋は無く、内部ははしご状に中空。茎の基部は褐色で、葉身の無い葉鞘を数枚つける。葉耳は未発達。花序は豪壮で多数の花序枝を出し、多くの花を単生または疎に束生させる。花序枝は長いもので4cmを越える。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はオーストラリア、ニュージーランド。

【国内の分布】

関東以西の本州。

【県内の分布】

東：13 御油町御幸浜（瀧崎 29488, 2013-6-1T）。西：33 横山町（堀田喜久 2145, 1992-6-29）。尾：37b 城山町（村松 20904, 2001-9-15N）43 りんくう町（芹沢 87030, 2011-6-4），48 高蔵寺町（山田果与乃 1764, 2011-4-17），49d 清洲町一場（渡辺幸子 832, 1996-5-23），50 千種区茶屋ヶ坂公園（高木順夫 21816, 2013-5-26N），51 緑区鳴海町（渡辺幸子 4346, 2000-6-26），52 中川区岩津三丁目（高木順夫 19562T, 2010-10-21），54 尾西市富田 木曾川河川敷（渡辺幸子 5416, 2003-7-15），55 祖父江町山崎（渡辺幸子 5406, 2003-7-8），56a 上萱津 五条川（芹沢 88473, 2013-6-11）。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や埋め立て地の水抜き池の周囲、養鰻池の周囲などに多く見られる。オーストラリアでは、多数の同属種としばしば交雑することが知られており（Wilson 2016），国内でも在来種との交雑に注意が必要である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	○

【侵入の経緯／現在の生育状況】

日本へはおそらく1990年頃に、関東地方以西に侵入した。愛知県での初記録は1992年（堀田喜久 2145）。沿海部の水辺に広く広がっている。

【被害状況／駆除策と留意点】

株が豪壮で、いったん生育すると簡単には抜去できない。生態的特性の項でも述べたが、他種との交雑の恐れがあり、遺伝子汚染の可能性がある。

【引用文献】

Wilson, K.L. 2016. *Juncus Polyanthemus* Buchenau. NEW SOUTH WALES Flora ON LINE. Plant Net (<https://plantnet.rbgsyd.nsw.gov.au>). Royal Botanical Garden

【関連文献】

平新版 1 p.280, 農教Ⅱ p.306, N 水草 p.165.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

シュロガヤツリ *Cyperus alternifolius* L. subsp. *flabelliformis* Kük.

【概要と選定理由】

大型のカヤツリグサ科多年生植物で、観賞用に植栽されたものが各地で逸出している。河川や湖沼に侵入して分布を広げており、国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

横走る根茎から太い三角形の茎を出し、高さ 2m になる。葉は鞘状に退化し、茎の基部に残る。茎頂に長さ 12~20cm ほどの狭被針形で硬い葉状の苞を傘形に密に互生させる。夏~秋にかけて苞の起部から 5~13cm の花序枝を出しその先に淡褐色の花穂をつける。小穂は数個。しばしば苞の基部から無性芽が伸長して、花茎が倒伏すると新しい個体になる。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はマダガスカル、熱帯~南アフリカおよびアラビア半島。中米、北アフリカ、ヨーロッパ南部、中国、パキスタン、インドネシア、ミャンマーなどに帰化している。

【国内の分布】

関東南部以西の本州。

【県内の分布】

東：15 牛川町 沖野（瀧崎 27009, 2010-9-12T), 16 西高師町（瀧崎 16892, 1998-6-16T), 18 堀切町（瀧崎 23914, 2008-5-4T)。西：30 山綱町（本多さおり 493, 1994-7-12), 36 佐久島（芹沢 84128, 2009-6-6)。尾：41a 加木屋町（吉鶴靖則 736, 2015-12-6), 43 小倉町（鳥居ちゑ子 1899, 2000-10-28), 48 東山町（竹原芳子 471, 1994-6-7), 50 守山区 瀬古一丁目（鳥居ちゑ子 3107T, 2012-9-29)。

【生育地の環境／生態的特性】

市街地の花壇や路傍の植え込みなどに観賞用に栽培されていたものが逸出したり、放棄されたりしているのをよく目にする。河川や湖沼に入ると抽水植物として生活し、特に河川では出水による倒伏で無性芽による栄養繁殖が盛んに行われ、密生群落を形成する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	○

【侵入の経緯／現在の生育状況】

観賞用、切り花用栽培植物として持ち込まれたが、逸出したり放棄されたりして野生化している。

【被害状況／駆除策と留意点】

地下茎が発達して、豪壮な植物であるため一度生育すると簡単には抜去できない。河川敷や湖沼の沿岸部では、在来の水生植物を圧迫する。

【関連文献】

平新版 1 p.339, 農教 I p.476, N 水草 p.178.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

メリケンガヤツリ *Cyperus eragrostis* Lam.

【概要と選定理由】

大型のカヤツリグサ科多年生草本で、富栄養化した水辺の攪乱跡地などに大きな群落を作ることがある。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は束生し、高さ 20~70cm になる。茎はこの類としては太く、三稜もやや不明である。葉は茎の下部に集まってつき、通常茎より短く、幅 4~8mm、基部の 2~3 個は葉身がほとんどなく、赤色を帯びる。葉状の苞葉は 3~7 個、長いものは 30cm 以上になる。花期は 6~10 月、分花序は茎頂につくほか長さ 1~10cm の枝を 2~8 本出し、時には更に少数の枝を分けて、その先にもつく。小穂は扁平な長楕円形、長さ 5~12mm、白緑色~淡黄緑色、多数が球状に密集してつく。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。現在では世界各地の熱帯~暖帯に帰化している。

【国内の分布】

本州~琉球、小笠原。

【県内の分布】

東：13 当古町（瀧崎 11509, 1990-8-7T）、15 大村町（瀧崎 15627, 1995-8-6T）、16 神野新田町（瀧崎 13282, 1992-6-20）、18 中山町（瀧崎 31130, 2015-8-27T）。西：23 西中山（塚本威彦 421, 1992-9-30）、24 岩滝町（山崎玲子 600, 1993-8-6）、25 太平町（芹沢 61913, 1992-6-25）、26 今町（中村さとこ 1048, 1993-10-9）、27 福谷（白井里華 513, 1992-6-25）、28 保久町（芹沢 93608, 2017-10-5）、29 筒針町（中西普佐子 148, 1992-7-26）、30 久後崎町（瀧崎 34017, 2018-8-18T）、32a 一里山町（芹沢 65959, 1993-6-11）、33 上条町（堀田喜久 2157, 1991-6-29）、34a 芳川町（瀧崎 33106T, 2017-6-3）。尾：37a 京町（日比野修 18, 1991-10-29）、37b 平子町（村松 751, 1989-10-14）、38b 三本木（伊藤恭子 404, 1992-7-3）、39a 諸輪（鬼頭弘 146, 1992-7-20）、40a 横根町（中村裕治 725, 1994-6-29）、42b 中午町（岡本久美子 472, 2000-6-24）、43 常滑（芹沢 68311, 1993-10-3）、45 本宮山（松田ちか子 516, 1986-7-31）、46a 山那（芹沢 67452, 1993-9-5）、47 大山（村瀬正成 930491, 1993-8-31）、48 気噴町（太田さち子 250, 1993-7-4）、49c 師勝町鹿田（鈴木幸子 99, 1992-6-18）、50 西区中切町（芹沢 28210, 1978-7-12）、51 瑞穂区井戸田町（水野和宏 8-11, 1991-8-9）、52 中川区戸田（中村浩二 8-2, 1989-8-28）、53 大和町（渡辺幸子 4790, 2001-7-24）、54 東五城（渡辺幸子 787, 1992-10-20）、55 祖父江町（山内富士子 s.n., 1979-7-12）、56a 七宝町桂（内藤久喜 8-10, 1992-8-2）、56b 花常（芹沢 92557, 2017-6-20）、57b 立田村田尻（芹沢 49723, 1988-8-19）、58 b 上野（西尾芳徳 s.n., 1994-7-7）。新城市旧市域（小林 2000）、田原市（旧町域, 旧赤羽根町）（小林 2002）、西尾市（旧一色町）（小林・深谷 2008）などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

安定した水辺だけでなく、空き地の一時的に水がたまるような場所にもよく生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

上田豊氏が 1959 年に三重県四日市港で採集したのが最初の記録（久内 1960, 名古屋市市中切町のオニクグ *C. javanicus* Houtt. と共に報告）だが、沖縄ではそれ以前に採集されていたらしい。現在では平野部に普通に見られる。

【被害状況／駆除策と留意点】

湿地性の植物であるが自然度の高い場所に侵入することは少なく、在来植物に対する影響は限定的と思われる。

【引用文献】

- 久内清孝. 1960. 名古屋市で採集されたカヤツリグサ科植物. 植物研究雑誌 35: 239.
小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.180. 愛知県.
小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.170. 東三林業振興会.
小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.282. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

- 保帰化 p.370, 平新版 1 p.340, 農教 I p.474.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

シナダレスズメガヤ *Eragrostis curvula* (Schrad.) Nees

【概要と選定理由】

多年生草本。法面緑化用に導入された植物で大きな株になり、河川敷などに群落を作る。国の重点対策外来種とされており、日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

稈は多数束生し、長さ 100~150cm になる。葉は糸状、幅 1.5~2mm、葉鞘の口辺には長い軟毛がある。花期は 5~10 月、円錐花序は長さ 30~50cm、枝は開出または斜上し、更に分枝してややまばらに小穂をつける。小穂は長さ 7~12mm、7~11 個の小花からなる。



【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アフリカ。現在では世界各地に帰化している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

東：1 佐久間湖右岸（瀧崎 24330T, 2008-7-30）, 2 三沢（瀧崎 24571, 2008-8-28T）, 9 上吉田（小林元男 52138, 1994-6-14）, 10 布里（瀧崎 32644, 2017-5-20T）, 12 竹ノ輪吉川峠（瀧崎 24812, 2008-10-4T）, 13 御油町（瀧崎 13188, 1992-6-1T）, 14 三谷町（井上美保子 277, 1992-6-7）, 15 嵩山町（芹沢・芳山朋子 204, 1984-10-10）, 16 明海町（瀧崎 14416, 1993-6-28）, 17 田原町波瀬（瀧崎 14400, 1993-6-28）, 18 日出町（瀧崎 24707, 2008-9-23T）。西：5 稲武町（鈴木学 2514, 1983-9-29）, 20 寧比曾岳（水野岸子 393, 1985-7-1）, 22 築平（日比野修 2287, 1993-6-22）, 23 西市野々（日比野修 447, 1992-6-29）, 24 川田町（畑佐 3360, 2002-5-2T）, 25 猿投町（磯貝彰宏 1839, 1984-10-17）, 26 今町（畑佐 1702, 2001-4-30T）, 27 福谷（芹沢 61313, 1992-5-22）, 28 鹿勝川（福岡義洋 1112, 1990-8-14）, 30 市場町（本多さおり 463, 1994-6-30）, 31 長嶺（金子律子 690, 1995-6-16）, 32a 井ヶ谷町（芹沢 45660, 1987-5-27）, 32b 西町（芹沢 92145, 2017-5-26）, 33 西別所町（堀田喜久 72, 1991-5-25）, 34b 河方町（中村さとこ 634, 1993-8-5）, 36 西幡豆（壁谷重美子 847, 1994-8-12）。尾：38a 長湫（半田多美子 847, 1994-8-12）, 38b 赤池（伊藤恭子 339, 1992-5-29）, 39a 春木（中村裕治 432, 1994-5-4）, 39b 栄町（浅野守彦 1113, 2001-8-13）, 40b 森岡（中村裕治 693, 1994-6-25）, 41b 大興寺（加藤雅憲 408, 1996-7-4）, 43 樽水（芹沢 65171, 1993-5-16）, 44a 古布（瀧崎 28497T, 2012-6-5）, 45 橋爪東（竹下希望 856, 2010-7-19）, 46a 南山名（上山秀郎 160, 1993-5-23）, 48 玉野町（太田さち子 347, 1993-7-25）, 49c 師勝町薬師寺（鈴木幸子 354, 1992-5-15）, 50 守山区天子田（鳥居ちよ子 131, 1992-9-8）, 51 太白区島田（武藤靖子 115, 1992-6-3）, 52 港区当知町（高木順夫 72, 1992-5-16）, 53 北方町（芹沢 70408, 1994-8-24）, 54 尾西市富田（渡辺幸子 1064, 1993-7-20）, 55 西島町（水野峰子 172, 1993-6-12）, 57b 立田村福原（山田茂貴 342, 1992-10-13）, 58a 今（永田晴美 586, 1994-5-24）。南知多町（小林・深谷 2008）からも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍、空き地などに生育するが、特に河川敷の砂地に大きな群落を作ることが多い。路面の間隙に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

道路法面の緑化材として 1950 年頃導入され、特に山地を走るドライブウェイなどで多く使用された。現在では平野部から山地まで広く生育している。愛知県では、大原（1971）の目録に記録がなく、その当時はあっても少なかったと思われる。

【被害状況／駆除策と留意点】

密集した群落では株が浮き、他の植物が生えにくくなる。ススキのような大形の植物まで駆逐することがある。

【特記事項】

英名ウィーピングラブグラス。初期に導入されたものは葉が巻く傾向が強く、茎も柔らかくしなだれるものであったが、最近広がっているものは葉があまり巻かず、茎も立ち上がる傾向が強い。前者をシナダレスズメガヤ、後者をセイタカカゼクサと呼んで区別する人もいる。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.273. 佐久島会, 刈谷.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌. 178pp. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.217, 保帰化 p.386, 平帰化 p.272-273, 平新版 2 p.70, 農教 I p.444.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ヨシススキ *Erianthus arundinaceum* (Retz.) Jeswiet.

【概要と選定理由】

豪壮な多年生草本。最近侵入してきた帰化植物の中で、最も自然への影響が危惧される植物の一つ。自動車専用道路の法面緑化材に紛れ込んできたものと考えられる。2mを越える草丈になり、密生した株をつくって殖え広がる。隙間無く立ち上がる桿と葉によって、他の植物の生育は著しく阻害を受け、在来種も含めた路傍雑草を駆逐する。法面から周囲の林縁・林床へと広がっていく危険がある。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

桿は直径2~3cm。密に束生し、高さ200~250cmになる。葉は線形、幅2~4cm、桿の下部から出て長さ1m、その基部は葉鞘となって桿を抱く。葉舌は白毛になる。桿の先にサトウキビに似た40cmを越える長い総状花序をつける。種子は風散布する。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地はスリランカ~東南アジア~東アジア。原産地では4mを越えるものもある。

【国内の分布】

群馬県、神奈川県、三重県、大阪府、愛媛県、香川県、徳島県、島根県、宮崎県、種子島、沖縄。

【県内の分布】

東：8名号(瀧崎30745, 2014-11), 16若松町(瀧崎35257, 2019-11-12T)。西：21 下山田代町(花井隆晃 5209, 2018-10-9), 24 松平志賀町(芹沢 93611, 2017-10-5), 31 芦谷 蒲郡バイパス(瀧崎 35188, 2019-9-29T)。尾：37a 吉野町(芹沢 85202 2009-10-13), 40b 石浜(花井隆晃 5207. 2017-12-16)。

このほか新東名高速道路や三遠南信自動車道などの法面にも生育しているが、採集できない。



瀧崎 30745



芹沢 93611

【生育地の環境／生態的特性】

小花には長い毛があり、よく風散布されるため、自動車の走行による風によって道路沿いに散布される。写真のように高さ3mほどの密生群落を形成し、他の植物の侵入を全く許さない。三遠南信自動車道沿いには、隣接する植林地や二次林内へ広がり始めている場所もある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

飼料として栽培されていたものが、逸出したのが帰化の最初とされる。近年急激に分布を広げたのは、在来種利用の法面緑化材として中国から持ち込まれたものに種子が混入していたためと考えられる。三遠南信自動車道では特に多く、ここからつながる新東名高速道路にも多く生育している。

【被害状況／駆除策と留意点】

道路の法面や、それにつながる林縁、さらには明るい林床に侵入し始めている。2020年には、高速道路から少し離れた場所でも、風散布された個体が報告されるようになってきた(中西普佐子氏私信)。丈の高い桿が密生するので、在来種を含む路傍の草本はその生育を著しく阻害される。すでに侵入から年数が経過した場所では、ほぼ純群落になっている。大きな植物で、桿が硬く、手による除草は困難である。まだ侵入初期であり、早急な対策が求められる。さらに分布が広がることも予見されるので、特に自動車専用道路等の法面やその周辺地域でのモニタリングが必要である。

【関連文献】

農協Ⅱp.462.

(瀧崎吉伸)

シマスズメノヒエ *Paspalum dilatatum* Poir.

【概要と選定理由】

1 年生草本。路傍や荒地、畑地、河川敷や土手に生育し、株立ちになる。ダリアグラスの名で、牧草としても用いられるが、国の総合対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は束生し、株立ちとなる。高さ 40~70cm の斜上する枝を放射状に出す。葉は線形、長さ 6~20cm、葉鞘は微毛をしくこともあるが口部以外は通常無毛である。花期は 6~10 月、花序は茎の片側に偏って開出する数本の総からなり、総は長さ 4~6cm で 2 列に小穂をつける。小穂は毛で被われる。

【分布の概要】

【世界の分布】

南アメリカ原産。現在では世界の熱帯~暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方）~九州。

【県内の分布】

東：8 鳳来寺山(加藤等次 2250,1992-10-17), 9 黄柳野(小林元男 46202, 1993-8-12), 12 大原調整池(瀧崎 18233,2000-11-19T), 13 八幡町(瀧崎 13480,1992-7-27T), 14 水竹町(井上美保子 7,1991-8-25), 15 春日町(瀧崎 4586,1980-8-17T), 16 神野ふ頭町(瀧崎 13483,1992-7-28T), 17 田原町芦村(小林元男 45126,1993-7-10), 18 伊良湖岬(瀧崎 13915,1992-10-10)。西：19 若里(塚本威彦 781,1993-8-28), 20 追分(新井文子 1046,1994-9-21), 21 下山田代町(芹沢 93385,2017-9-19), 22 百月(日比野修 2375,1994-7-18), 23 北一色(日比野修 2675,1994-10-14), 24 成合町(山田初代 849,1991-8-2), 25 猿投町(磯貝彰宏 1849,1984-10-17), 26 渡刈町(落合鈴枝 17,1992-6-14), 27 筋生(白井里華 451,1992-6-16), 28 鹿勝川(福岡義洋 956,1993-7-25), 29 筒針町(中西普佐子 33,1991-10-21), 30 本宿町(芹沢 64119,1992-10-7), 31 萩(金子律子 764,1995-6-22), 32a 井ヶ谷町(瀧崎 530t,1978-9-18), 32b 西町(芹沢 92496,2017-6-14), 33 西別所町(堀田喜久 92,1991-5-25), 34a 芳川町(芹沢 92372,2017-6-3), 34b 伏見屋外新田(芹沢 66760,1993-8-5), 35 西奥田町(中村さとこ 495,1993-7-4), 36 東幡豆(壁谷重美子 682,1994-7-8)。尾：37a 十軒町(日比野修 58,1991-11-5), 37b 新居(瀧崎 29877,2013-10-5T), 38a 岩崎(村瀬美智子 204,1992-7-13), 39a 北山台(鬼頭弘 142,1992-6-21), 40a 桃山町(竹田弘光 34,1992-8-13), 40b 生路(中村裕治 900,1994-8-26), 41a 加木屋町(加藤雅憲 1013,1996-10-22), 42 町草木(渡邊麻子 686,1995-8-24), 42b 行人町(岡本久美子 687,2000-8-27), 42c 武豊(芹沢 68394,1993-10-3), 43 常滑(芹沢 66405,1993-7-4), 44a 布土(芹沢 61645,1992-6-12), 44b 豊浜(大西博 728,1992-7-13), 45 善師野(平嶋敏 722,1989-7-8), 46a 山那(上山秀郎 165,1993-5-28), 46c 古知野町(中西文治 381, 1980-8-7), 47 大山(瀧崎 27010,2010-8-4T), 48 細野町(芹沢 66369,1993-6-25), 49a 東新町(竹下希望 1011,2010-8-8), 49c 師勝町熊之庄(鈴木幸子 79,1992-6-10), 49d 新川町西堀江(芹沢 77909,2002-7-21), 50 守山区小幡(福岡義洋 1996,1992-10-2), 51 天白区八事(西川勇夫 91,1992-6-4), 52 中村区城屋敷町(鶴岡佐知子 85,1992-7-5), 54 奥町(芹沢 60199,1991-9-6), 55 高御堂町(岩田妙子 尾 1146, 1988-10-2), 56b 三本木(芹沢 60872,1991-10-19), 57b 佐屋町大野(山田茂貴 81,1992-6-23), 58c 新政成(芹沢 93650,2017-10-7)。



白井里華 451

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や荒地に普通に見られる。旺盛に種子繁殖をする。バツカクキン（麦角菌）の一種に罹患している個体群も蒲郡市などに見られる。

タチスズメノヒエが侵入してくると、競争に負けて駆逐される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

ダリアグラスの名で牧草としても用いられるが、市街地のものの侵入経路はよくわからない。

【被害状況／駆除策と留意点】

在来種のスズメノヒエを駆逐して置き換わっている。

【関連文献】

北帰化 p.230, 平帰化 p.285, 平新版 2 p.92, 農教 I p.458.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

キシュウスズメノヒエ *Paspalum distichum* L.

【概要と選定理由】

多年生草本。ため池の岸，水路，水田などの水辺に生育し，長く匍匐茎を伸ばして水辺に密集した群落を作る。国の総合対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は束生し，下部は長く匍匐し，節から発根し，高さ 15～40cm の直立枝を出す。匍匐枝の節は有毛だが，直立枝の節は無毛になる。葉は線形，長さ 4～12cm，葉鞘口部以外は無毛である。花期は 6～10 月，花序は 2 本の総からなり，総は長さ 2～5cm で 2 列に小穂をつける。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカといわれるが，現在では世界の熱帯～暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方）～九州。

【県内の分布】

東：12 豊島(小林元男 65416,1998-10-29)，13 一宮町(芹沢 52479, 1989-7-31)，15 下条東町(瀧崎 16963,1998-8-10T)，16 王ヶ崎町(瀧崎 14570, 1993-9-4T)，17 田原町(瀧崎 9451, 1987-7-5)，18 和地(小林元男 74222, 2001-11-18)。
西：24 坂上町炮烙山(山崎玲子 261, 1992-9-6)，25 荒井町(畑佐 4038, 2002-6-14T)，26 渡刈町(落合鈴枝 354, 1993-8-15)，30 針崎町(千賀敏之 s.n., 2011-9-28T)，32a 一ツ木町(中村裕治 710, 1994-6-26)，33 村高町(堀田喜久 907, 1993-10-2)，34b 伏見町(鈴木淳 10-8, 1990-10-25)，35 鶴ヶ池町(芹沢 68677, 1993-10-13)。
尾：37b 南栄町(村松 26307, 2011-10-9N)，38b 赤池(半田多美子 1185, 1993-7-26)，39b 栄町(芹沢 66596, 1993-7-16)，40b 森岡(中村裕治 719, 1994-6-29)，41a 高横須賀町(加藤雅憲 778, 1996-9-26)，41b 日長(加藤雅憲 884, 1996-10-10)，42a 宮津(渡邊麻子 985, 1995-10-13)，42b 板山町(芹沢 68433, 1993-10-3)，42c 別曹池(瀧崎 26129T, 2009-10-3)，43 金山(鳥居ちゑ子 2948T, 2011-7-15)，44b 大井(大西博 1165, 1992-9-22)，45 犬山(竹下希望 553, 2010-6-20)，46b 下小口(竹原芳子 1185, 1996-7-30)，49a 北島町(芹沢 70724, 1994-9-6)，49c 西春町鍛冶ヶ一色(水谷善彌 10649, 1992-9-19)，49d 新川町桃栄(芹沢 77928, 2002-7-21)，50 守山区中志段味(鳥居ちゑ子 979, 1995-8-6)，51 緑区大高町(渡辺幸子 4503, 2000-9-22)，52 中村区城屋敷町(鶴岡佐知子 154, 1992-9-22)，53 北方町(佐分康之 1204, 1996-9-19)，54 奥町(芹沢 60211, 1991-9-6)，5 奥田計用町(岩田妙子 尾-1017, 1988-8-3)，56b 東条(芹沢 60176, 1991-9-3)，57a 橘町(芹沢 49093, 1988-7-19)，58a 本町(永田晴美 609, 1994-7-19)，58b 楠(畑佐 1479, 2000-8-8T)。



【生育地の環境／生態的特性】

概要の項参照。匍匐茎の断片は容易に発根し，耕すほど群落が拡大する。

【侵入の経緯／現在の生育状況】

1924 年に和歌山県で採集された。大原(1971)の目録では産地として渥美があげられているだけで，その当時はまだあまり多い植物ではなかったと思われる。県内で普通に見られるようになったのは 1980 年頃からである。

【被害状況／駆除策と留意点】

水田の強害雑草となっているだけでなく，かつて普通種であった多くの在来水田雑草を圧迫している。

【特記事項】

4 倍体のチクゴスズメノヒエ (p.132) は全体にやや大型で葉鞘や節に毛がある。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.171. 愛知県.
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.134. 名古屋営林局.

【関連文献】

北帰化 p.230, 平帰化 p.285, 平新版 2 p.92, 農教 I p.458.

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

チクゴスズメノヒエ *Paspalum distichum* L. var. *indutum* Sinners

【概要と選定理由】

多年生草本。ため池の岸，水路，水田などの水辺に生育し，長く匍匐茎を伸ばして水辺に密集した群落を作る。国の重点対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は束生し，下部は長く匍匐し，節から発根し，高さ15～50cmの直立枝を出す。匍匐枝の節は有毛だが，直立枝の節は無毛になる。葉は線形，長さ6～14cm，節や葉身に白い毛を密生するので遠目には白緑色を呈する。花期は6～10月，花序は2～3本の総からなり，総は長さ3～6cmで2列に小穂をつける。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカといわれるが，現在では世界の熱帯～暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方）～九州。

【県内の分布】

東：13 御津町下佐脇（小林元男 57922, 1995-8-27）。西：26 渡刈町（落合鈴枝 593, 1994-9-5）。尾：38a 長湫（半田多美子 2197, 1996-8-8），39b 阿野町（浅野守彦 982, 2000-8-20），46b 大屋敷（竹下希望 1265, 2010-9-13），49a 北島町（芹沢 70725, 1994-9-6），50 守山区上志段味（鳥居ちゆ子 982, 1995-8-26），51 天白区笹原町（渡辺幸子 458, 1992-7-27），52 中川区富田町（高木順夫 572, 1992-9-23），53 北方町（芹沢 70411, 1994-8-24），54 尾西市開明（渡辺幸子 1860, 1994-9-27），55 北方町（芹沢 72508, 1994-10-17），56a 甚目寺町西今宿（鈴木秀樹 3010, 1996-8-11），56b 砂子（芹沢 71177, 1994-10-2），57b 立田村森川（芹沢 71287, 1994-10-7），58b 弥富町（竹原芳子 901, 1995-8-8）。



【生育地の環境／生態的特性】

概要の項参照。匍匐茎の断片は容易に発根し，耕すほど群落が拡大する。4倍体である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

1970年代に福岡県筑後地方で見いだされた。その後，ほぼ基準変種のキシユウスズメノヒエと重なる分布範囲をもつに至っている。

【被害状況／駆除策と留意点】

キシユウスズメノヒエより水深の深いところにも生育する。水田に侵入すると，しばしば防除困難になる強害雑草である。かつて普通種であった多くの在来水田雑草を圧迫している。一昔前はむしろ嫌われ者であったアシカキなどは，本種（基準変種も含め）と競合するため，現在ではほとんど見られなくなっている。

【特記事項】

6倍体の基準変種キシユウスズメノヒエは，全体に小型で葉鞘口部を除く葉身や葉鞘には毛が無い。

【関連文献】

北帰化 p.230, 平帰化 p.285, 平新版 2 p.92, 農教 I p.458.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

アメリカスズメノヒエ *Paspalum notatum* Flüggé

【概要と選定理由】

多年生草本。路傍や荒地、畑地、河川敷や土手に生育し、地下茎を這わせて群落を作る。非常に強く根を張り、引き抜きにくい。バヒアグラスと呼ばれ、牧草や法面緑化材として用いられる。国の産業管理外来種に選定されている。

【形態】

茎は短く匍匐する木質の地下茎から立ち上がり、ややまばらな群落を作る。高さ 20~60cm。葉は線形、長さ 5~20cm で中央脈で V 字状に折れる。葉鞘は普通無毛。稀に毛がある。花期は 7~10 月。花序は茎頂に V 字のように付く 2 本の総からなり、時にその下に 1~2 本の総が付くことがある。総は長さ 4~6cm で 2 列に小穂をつける。小穂は縁を除き無毛で、表面に光沢がある。



山田果与乃 1767

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は熱帯アメリカ。現在では世界の熱帯~暖帯に広く導入されたり帰化したりしている。

【国内の分布】

本州（関東地方）~九州。

【県内の分布】

東：8 豊岡(瀧崎 27888,2011-9-3T), 12 八束穂(瀧崎 31154,2015-9-5T), 13 院之子(加藤等次 1885,1992-9-7), 14 竹島(瀧崎 35917, 2020-10-24T) 15 岩崎町(瀧崎 10495,1988-7-27), 16 神野ふ頭町(瀧崎 15070,981994-7-25), 18 石神(小林元男 47065,1993-8-28)。西：20 中立(山崎玲子 2051,1999-7-17), 21 平瀬(長谷川朋美 857,1992-9-24), 22 大平(鳥居ちよ子 776,1994-10-10), 24 御船町(佐藤久美子 611,1993-7-23), 25 井上町(芹沢 68170,1993-10-1), 26 渡刈町(落合鈴枝 330,1993-7-23), 27 黒笹町(芹沢 93409,2017-9-20), 28 鳥川(福岡義洋 1092,1990-8-9), 29 康生町(瀧崎 33851,2018-6-16T), 32a 小垣江町(益田千代子 8 14,1993-8-6), 33 村高町(堀田喜久 906,1993-10-2), 34b 川口町(芹沢 67554,1993-9-10), 36 東幡豆(壁谷重美子 40,1993-8-20)。尾：37a 上本町(五十嵐雅裕 8 8,1992-8-7), 37b 新居(瀧崎 29878T,2013-10-5), 38a 長湫(半田多美子 495,1992-8-26), 39a 諸輪(鬼頭弘 150,1992-7-20), 42a 宮津(渡邊麻子 1000,1995-10-14), 42b 岩滑西町(岡本久美子 548,2000-7-15), 43 坂井(梅田零奈 523,2000-7-7), 44a 古布(大西博 974,1992-9-3), 44b 内海(芹沢 62128,1992-7-23), 45 今井(芹沢 70934,1994-9-20), 48 高蔵寺町(山田果与乃 1767,2011-7-17), 49c 師勝町高田寺(鈴木幸子 521,1993-8-4), 50 守山区天子田(鳥居ちよ子 438,1993-7-29), 51 緑区鳴海町(渡辺幸子 6883,2014-7-2), 52 港区金城ふ頭(渡辺幸子 5939,2007-10-3), 56b 八ッ屋(芹沢 95909, 2019-9-30), 57b 佐屋町大野(山田茂貴 185,1992-8-5)。

【生育地の環境／生態的特性】

畑地や荒地、路傍に普通に見られるようになった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

国内への侵入は、牧草としての導入による。現在では関東以西に普通に見られる。牧草の他、法面緑化材としても利用されることがある。

【類似種】

コアメリカスズメノヒエ *Paspalum minus* E.Fourn. は全体に小型で、総が短く、小穂も小さく光沢が無い。東：18 中山町(瀧崎 28076,2009-9-27) で確認しているが、勝山輝男(2003)が日本の帰化植物(平凡社)で指摘しているように区別はやや微妙である。

【被害状況／駆除策と留意点】

畑地や公園などに侵入すると、木質化した地下茎が大変丈夫で、除去が困難である。

【引用文献】

勝山輝男. 2003. コアメリカスズメノヒエ. 日本の帰化植物. p.286. 平凡社. 東京.

【関連文献】

保帰化 p.381, 平帰化 p.286, 平新版 2 p.93, 農教 I p.458.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

タチスズメノヒエ *Paspalum urvillei* Steud.

【概要と選定理由】

多年生草本。路傍や荒地、畑地、河川敷や土手に生育し、地下茎を這わせて面的な密生群落を作る。他の植物の侵入を許さない。英名はヴァシーグラス。牧草にされることもあるが、茎の基部に針状の剛毛が密生し、牛や羊は老成した植物を忌避する。国の総合対策外来種に選定されている。

【形態】

茎は短く匍匐する地下茎から立ち上がり、密生する群落を作る。高さ 70~150cm。葉は線形、長さ 10~40cm、葉鞘の下部には針状の剛毛が密生する。花期は 7~10 月、花序は茎の片側に偏って斜上する 10~20 本の総からなり、総は長さ 4~6cm で 2 列に小穂をつける。小穂は毛で被われる。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は南アメリカ、現在ではオセアニアを除く世界の熱帯~暖帯に広く帰化している。

【国内の分布】

本州（関東地方）~九州。

【県内の分布】

東：8 玖老勢(瀧崎 24499,2008-8-24T), 9 乗本(小林元男 49304,1993-11-3), 10 一色(芹沢 70491,1994-8-28), 12 富岡(芹沢 64140,1992-10-7), 13 御津町豊沢(瀧崎 17007,1998-8-25T), 14 浜町(瀧崎 32136,2016-10-1T), 15 石巻萩平町(芹沢 64465,1992-10-27), 16 明海町(瀧崎 16647,1997-10-13T), 17 西神戸町(瀧崎 23227,2007-8-1T), 18 日出町(瀧崎 24368,2008-8-9T)。西：19 西小柳(塚本威彦 841,1993-10-3), 20 足助(新井文子 1082,1994-9-23), 22 樽俣(日比野修 2602,1994-9-12), 24 扶桑町(畑佐 4655t,2002-8-8), 25 篠原町(芹沢 60074,1991-8-28), 26 西岡町(芹沢 71386,1994-10-28), 27 筋生(白井里華 691,1992-8-23), 29 茅原沢町(伊奈知子 543,1993-7-23), 31 坂崎(金子律子 1603,1995-10-23), 32a 井ヶ谷町(芹沢 68261,1993-10-1), 33 小川町(堀田喜久 870,1993-10-2), 34b 前浜町(芹沢 66745,1993-8-5), 35 米津町(堀田喜久 1866,1992-8-12), 36 東幡豆(瀧崎 17547,1999-9-26T)。

尾：37a 水北町(芹沢 56101,1990-7-30), 37b 新居(瀧崎 29879,2013-10-5T), 38a 岩作(半田多美子 830,1992-10-11), 38b 本郷(芹沢 63959,1992-9-30), 39a 諸輪(鬼頭弘 238,1992-10-11), 40a 長草町(辻宏美 1015,1990-10-27), 40b 生路(中村裕治 732,1994-6-30), 41b 大草(鳥居ちゑ子 3010,2011-10-25T), 42c 下山ノ田(岡本久美子 702,2000-8-30), 43 久米(梅田零奈 845,2000-10-2), 44a 野間(瀧崎 28892,2012-11-3T), 46b 河北(竹原芳子 1270,1996-9-3), 46c 北野町(竹下希望 796,2010-7-12), 48 気噴町(太田さち子 253,1993-7-4), 49a 北島町(芹沢 72509,1994-10-17), 49c 師勝町六ツ師(鈴木幸子 174,1992-8-10), 49d 新川町下河原(芹沢 64348,1992-10-21), 50 守山区天子田(鳥居ちゑ子 200,1992-10-4), 51 天白区御前場町(中島ひろみ 176,1992-7-20), 52 中川区富田町(芹沢 60839,1991-10-16), 54 尾西市起(芹沢 60193,1991-9-6), 55 平和町西光坊(家田晴俊 291,1994-10-15), 56b 三本木(芹沢 60871,1991-10-19), 57b 立田村福原(山田茂貴 817,1993-10-2)。



【生育地の環境／生態的特性】

畑地や荒地、路傍に普通に見られる。種子繁殖もするが、短い地下茎を這わせ密生する群落を形成して、他の植物の生育を著しく阻害する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	○
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

国内への侵入は、戦後北九州からとされる。現在では関東以西に普通に見られる。国内では牧草としてはあまり利用されていない。

【被害状況／駆除策と留意点】

河川の堤防土手に侵入すると、在来種のススキを駆逐する。基部の葉鞘に密生する針状毛は、素手で除草しようとするとう手を傷つける。

【関連文献】

北帰化 p.230, 平帰化 p.285, 平新版 2 p.92, 農教 I p.458.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)

モウソウチク *Phyllostachys heterocyclus* (Carrière) Houz.

【概要と選定理由】

常緑性の超大型草本。日本で一般的に栽培されている中では最も大形の竹で、新芽（タケノコ）は食用として広く利用される。もともとは植栽されたものであるが、長い地下茎を伸ばして周囲の林に侵入し、稈は1ヶ月で20m近く伸長して他の樹木を被圧する。現在日本の里山で、最も問題になっている植物である。愛知県の条例公表種であり、国の産業管理外来種に選定されている。

【形態】

根茎は太くて地中を長く横走し、ところどころから地上茎を出す。稈は直立して高さ20m、直径20cmに達し、節は単環状、枝は1節から2本ずつ出る。タケノコは4月に出て、皮は黒紫褐色、背面に粗毛がある。葉は各枝先に2~5枚つき、披針形、長さ6~10cm、幅5~12mmである。



豊橋市 2007-8-18 瀧崎撮影

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は中国大陸。

【国内の分布】

北海道（南端）～九州。人里周辺に広く植栽される。

【県内の分布】

東：9 下吉田（瀧崎 28349, 2010-5-4T）, 15 大岩町（瀧崎 28166, 2011-12-18T）,

16 藤並町（瀧崎 28167, 2011-12-18T）, 17 越戸町（瀧崎 28168, 2011-12-18T）。西：20 追分（鈴木万里亜 256, 1995-4-24）, 21 大桑（芹沢 67956, 1993-9-24）, 22 雑敷（日比野修 2969, 1995-7-9）, 23 白川（日比野修 2977, 1995-7-12）, 24 御船町（佐藤久美子 602, 1993-7-10）, 25 猿投町（芹沢 71341, 1994-10-16）, 26 長興寺町（落合鈴枝 428, 1993-9-18）, 27 福谷（芹沢 69849, 1994-6-21）, 29 切越町（芹沢 67132, 1993-8-25）, 30 羽栗町（芹沢 69897, 1994-6-23）, 31 深溝（金子律子 1368, 1995-10-9）, 32a 野田町（白井直子 22, 1993-5-28）, 33 安城町（堀田喜久 555, 1993-8-13）, 35 小島町（芹沢 67614, 1993-9-15）, 36 東幡豆（壁谷重美子 649, 1994-6-30）。尾：37a 三沢町（日比野修 2367, 1994-7-13）, 37b 狩宿町（村松 22068, 2003-12-13N）, 38b 五色園（村瀬美智子 1005, 1994-6-28）, 40b 藤江（中村裕治 751, 1994-7-7）, 41a 加木屋町（加藤雅憲 215, 1996-5-16）, 42a 卯坂（渡邊麻子 1048, 1995-10-28）, 42b 行人町（岡本久美子 518, 2000-7-9）, 43 瀬木町（芹沢 68304, 1993-10-3）, 45 石洞（小林元男 53758, 1994-9-15）, 48 細野町（芹沢 66918, 1993-8-13）, 49a 北島町（芹沢 70739, 1994-9-6）, 52 中村区日比津町（高木順夫 19598, 2010-10-22）, 56b 鎌須賀（芹沢 70012, 1994-7-1）, 58a 蟹江町（永田晴美 597, 1994-5-25）。豊根村（富山地区, 旧村域）, 東栄町, 設楽町（津具地区, 旧町域）（小林 2006）, （旧鳳来町, 旧市域）（小林 2000）, 豊川市, 蒲郡市（小林 2004）, 南知多町（小林・深谷 2008）などからも記録されている。

【生育地の環境／生態的特性】

人家周辺の湿り気のある緩傾斜地に植えられていることが多いが、逸出したものは尾根にまで生育している。しかし通常開花・結実せず、そのため遠距離に分布を拡大することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【侵入の経緯／現在の生育状況】

江戸時代中期（1736年）に鹿児島県に渡来したとされ、タケノコを食用とするため、また竹材を利用するために各地に植栽された。近年竹林の管理放棄に伴って生長が抑制されなくなり、そのため全国的にも愛知県でも、本種の群落が急速に拡大している。

【被害状況／駆除策と留意点】

里山の二次林だけでなく、造林地や時には自然林にまで侵入する。特に社寺林は、近くに竹林があることが多く、影響を受けやすい。田原市越戸大山の白山比咩神社社叢は稀少な暖地性植物が多く生育していたが、本種が繁茂して著しく劣化している。密生した竹林の林床は暗く、落ち葉が厚く堆積して他の植物が生育できなくなる。そのため竹林は、一般に生物多様性が乏しい場所になる。対策としては市民参加による伐採が考えられるが、一方で作業の際の林床踏み荒らしに注意する必要がある。市民参加の活動では、様々な自然体験活動を組み合わせて行うとよい（芹沢・桐山 2008）。

【特記事項】

マダケに比べ稈は太いが枝は細かく分かれ、葉は小さくて多数つく。

【引用文献】

- 小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.173-174. 愛知県.
- 小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.193. 東三河農林水産事務所.
- 小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.229. 愛知県林業試験研究推進協議会.
- 小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.278. 佐久島会, 刈谷.
- 芹沢俊介・桐山和也. 2008. 環境教育の展開と実践⑦ 平成桃太郎のタケ退治. 41pp. 愛知教育大学出版会.

【関連文献】

- 鈴木貞雄. 1978. 日本タケ科植物総目録 p.70-71. 学習研究社, 東京.
- 保木II p.361-362, 平新版 2 p.33.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

ヒガタアシ *Spartina alterniflora* Loisel.

【概要と選定理由】

塩湿地性の大型多年生草本。日本にはもともと満潮時に水没する場所に生育する大型草本はなく、そのため干潮時にはほとんど無植被の広い干潟が出現して、渡り鳥のよい中継地になっている。そこに本種が侵入すれば、干潟生態系は深刻な影響を受けることが懸念される。北米植物誌では、干潟生態系に対する「深刻な脅威」と述べられている(Barkworth 2003)。国の特定外来生物である。

【形態】

地下茎は太く、直径 2cm ほどになり、横走して中空、多数の走出枝を出して密生群落を形成する。稈は高さ 2.5m、直径 3cm に達し、葉を互生する。葉は線形、長さ 1 m に達し、幅は 7~10mm、無毛、葉舌は長さ約 1mm である。花期は 9~10 月、花序は茎頂につき、長さ 50cm に達し、総は 7~15 本で軸に沿って立つ。小穂は瓦状に総に圧着し、護穎は無毛~微毛である。

【分布の概要】

【世界の分布】

原産地は北アメリカ東部、北アメリカ西部、南アメリカ、ヨーロッパ、中国、オーストラリアに帰化している。

【国内の分布】

愛知県（三河湾）、山口県下関市、熊本県（八代海、有明海）。

【県内の分布】

東：16 梅田川（飯田一令 s.n., 2008-10-21）。西：34b 堀川（芹沢 95002, 2018-12-1）。尾：42b 阿久比川（芹沢 87539, 2011-10-27）。



豊橋市 2011-10-12 瀧崎撮影

【生育地の環境／生態的特性】

塩湿地の最も海側に生育する。耐塩性が非常に高く、海水に 1 日の半分以上の時間水没していても生育できる。土壌も選ばず、砂礫地からヘドロがたまるような場所まで生育できる。しかし、塩分のない場所では生育できないらしい。

群落は水の流れと土砂などの流れを阻害し、堆積物をとらえて干潟を陸地化する。そのため、放置すると塩性湿地が草原になってしまう。豊橋市の個体群では、種子はあまり形成されなかった。主力は栄養繁殖で、通常は走出枝の断片が流れに乗って分布を広げるらしい。碧南市の個体群は種子でよく繁殖していた。豊橋市の個体群と半田市の個体群は同一クローンではないと考えられるが、碧南市の個体群と半田市の個体群の関係は未だ不明である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				○

【侵入の経緯／現在の生育状況】

2008 年にはじめて採集され不明種であったが、2011 年になって八木将勝氏の示唆により種名が確定できた。侵入経路は定かでないが、種子または走出枝の断片が船により運ばれてきた可能性が高い。2008 年には、豊橋市の梅田川河口に数年生と思われる群落が少なくとも 2 カ所成立していた。2011 年には東西 2km、南北 2km ほどの範囲に密生群落（写真）が点在するほどに拡大しており、放置すればさらに広がったに違いない。熊本のものもおそらくほぼ同時期に侵入したと考えられる。

半田市の群落は 2011 年秋に発見されたが、植物体はまだ比較的小さく、侵入初期と思われた。国立環境研究所が行った遺伝子解析の結果を見ると、豊橋市梅田川の 2 個体と半田市の個体は葉緑体 trnT-trnL 領域の塩基配列に多少の差があり、同一クローンではないと判断される。豊橋市の集団が全て単一クローンならば、半田市の植物は別途海外から侵入したと推定される。2018 年冬に碧南市堀川に大きな群落があるのが見つかった。全体に豊橋や熊本のものより小型で、護穎に微毛がある。当初 *S. anglica* と誤認したが、DNA 分析によりヒガタアシとわかった。

【被害状況／駆除策と留意点】

豊橋市の群落は、ハマサジ（国 NT、県 NT）シバナ（国 NT、県 NT）イソホウキギ（県 NT）ウラギク（国 VU）が生育する塩性湿地を埋め尽くし、これらの希少種の生育を著しく阻害していた。隣接する汐川干潟や六条潟に侵入すれば、他生物や産業に対する影響もはかりしれない。2011 年 10 月に県・市が協働して駆除に取り組んだが、一部を除いて地上部を刈り取ることしかできなかった。その後、県・県・市の立ち上げた対策協議会の元、地元の中学生を含め多くの人の協力と資金援助を得て、市内のものはほぼ根絶できた。特に環境省の予算で行われた防草シートによる遮光と、県による梅田川河床の浚渫、豊橋市による山崎川の埋め立ては大きな役割を果たした。碧南市でも市によって浚渫された。侵略的外来種の早期発見と根絶の、大変良い実施事例となったと考える。

【特記事項】

S. anglica C.E.Hubb. は、本種とヨーロッパ産の *S. maritima* (Curt.) Fernald の雑種に起源する複 2 倍体種である。しかし、本種の方が大形で、環境影響も大きいと思われる。

【引用文献】

Barkworth, M.E. 2003. *Spartina* Schreb. Flora of North America 25: 240-250. Oxford Univ. Press, New York.

（瀧崎吉伸・芹沢俊介）

オオフサモ *Myriophyllum aquaticum* (Vell.) Verdc.

【概要と選定理由】

多年生の抽水性水草。在来のフサモ類と異なり水上茎がよく発達し、密集した群落を形成して水面を覆い、他の水草の生育を妨げる。国の特定外来生物であり緊急対策外来種でもある。日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されている。

【形態】

茎は円柱状で直径約 5mm, しばしば赤みを帯び、分枝しながら泥中または水中を長く匍匐する。水上茎は高さ 10~30cm, 気中葉は 4~7 枚が輪生し、長さ 2~5cm, 羽状に細裂し、緑青色で粉白色を帯びる。花は気中葉の葉腋につき、雌雄異株であるが、日本には雌株だけが帰化している。花期は 6 月頃と言われるが、愛知県では資料が少なく、はっきりしない。

【分布の概要】

【世界の分布】

南アメリカ原産であるが、観賞用に世界各地で栽培され、あちこちで逸出している。

【国内の分布】

北海道~琉球。

【県内の分布】

東 : 13 金沢大池 (芹沢 68850, 1993-10-20)。 **西** : 22 市場 (山崎玲子 975, 1994-10-26), 24 滝見町 (山崎玲子 1610, 1997-6-25), 25 荒井町矢作川 (畑佐武司 2057, 2001-6-17T), 29 小呂町 (杉田一記 538, 2010-5-14), 31 深溝 (金子律子 1239, 1995-9-22), 33 別郷町 (堀田喜久 2079, 1993-12-10)。 **尾** : 37a 柳ヶ坪町 (日比野治 1836, 1993-10-18), 37b 旭ヶ丘町 (村松 22240, 2004-8-14), 38a 岩作 (伊藤恭子 708, 1992-9-30), 41b 阿原町 (加藤雅憲 806, 1996-9-29), 43 蒲池 (中井三従美 63, 1995-11-10), 50 千種区田代町 (広部栄 104, 1993-7-29), 51 天白区久方 (武藤靖子 385, 1993-7-16), 52 中川区富田町 (高木順夫 380, 1992-8-20), 54 尾西市東加賀野井木曾川 (渡辺幸子 4911, 2001-10-7), 57b 立田村竜ヶ森 (山田茂貴 883, 1993-10-7)。 新城市旧市域 (小林 2000), 豊橋市 (北部, 南部) (小林 2001), 田原市 (旧赤羽根町, 旧渥美町) (小林 2002) などからも記録されている。



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸や水路など、浅い水中に生育する。種子は作らず、殖芽も形成しないが、植物体の断片が不定根を出して容易に新個体になる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【侵入の経緯／現在の生育状況】

パロットフェザーの名で栽培されていた植物で、大正時代に観賞用に持ち込まれたものが野生化したと言われる。浜島繁隆氏によれば、1967 年 8 月に蟹江町で見たという。

【被害状況／駆除策と留意点】

ため池の岸辺に繁茂して水辺を占有し、在来のタチモ、ヒメホタルイ、ミズユキノシタなど水際に生育する植物を圧迫する。駆除策としては物理的除去しかないが、必ず残存個体があるので、少し間隔を置いて再度除去作業を行う必要がある。

【特記事項】

在来 of フサモ属植物はほとんど沈水性で、水上茎は水中部分よりずっと小さい。

【引用文献】

- 小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.122. 愛知県.
- 小林元男. 2001. 豊橋市の植物 p.106. 愛知県植物誌調査会.
- 小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.128. 東三林業振興会.

【関連文献】

保帰化 p.396, 平帰化 p.149-150, 農教 I p.215, N 水草 p.237.

(瀧崎吉伸・芹沢俊介)